

「年齢別に見た女性の意識と行動調査 '93」

健康意識の年代変化と男女比較

「年齢別に見た男性の意識と行動調査 '92」

はじめに

高齢化社会への移行の中、医療費の増大が大きな社会問題となり、治療から予防へと医療のあり方を変えていくことが課題となっている。その前提として日本人はどのような健康意識をもっているのだろうか。病気というほどではないが、なにかしらの兆候とも考えられる自覚症状と、その裏返しである健康への関心度をまとめた。

まとめ

- (1) 一般的には年代とともに健康が損なわれていくと考えられるが、自覚症状をみるとむしろ30代既婚層に山があり、この年代の男女に身体の負担がかかっていることがわかる。ただし健康への関心度は40代に入ってから大きくなることから、30代は若さに任せて乗切っていると思われる。男女を比較すると女性の方に自覚症状がある人が多く、20代で既に全く自覚症状のない人は1割と大変少ない。
- (2) 健康を話題にする人も女性の方が多く、気を使っていることがわかる。男性で女性より関心が高い項目は、若年層の「体力維持」だけであり、これは健康の基盤となるもの、あるいは男性性の象徴としての「体力」への関心が高いためと考えられる
- (3) 健康維持のための努力としては「健康のため睡眠を充分取るようにしている」人は男女共8割に上り、年代差もないことから日本人は大変睡眠に気を使っているといえる。食品についてはバランスだけでなく素材やさらに飲料水への関心も高い。
- (4) 治療法への関心は、「薬をさげ、健康食品を摂取する」意向は年代で変わらない。「漢方薬や療法」への関心は年代とともに上昇する。

94.5.27

ポーラ文化研究所
岡林、渡辺

調査概要

年齢別に見た女性の意識と行動調査' 93

1、対象者：首都圏に住む女性（エリアサンプリング法による抽出）

<u>年齢と属性</u>	<u>人数</u>
高校生	75
大学生	75
19-24歳	75
25-29歳(未婚)	75
25-29歳(既婚)	75
30-34歳(未婚)	50
30-34歳(既婚)	75
35-39歳(未婚)	50
35-39歳(既婚)	75
40-44歳	100
45-49歳	100
50-59歳	100
60-64歳	75
合計	1000

2、実施時期：93年7月

3、調査方法：個別訪問面接聴取および留置法の併用

年齢別に見た男性の意識と行動調査 ' 92

1、対象者：首都圏に住む男性（エリアサンプリング法による抽出）

<u>年齢と属性</u>	<u>人数</u>
高校生	75
大学生	75
19-24歳	75
25-29歳(未婚)	75
25-29歳(既婚)	75
30-34歳(未婚)	75
30-34歳(既婚)	75
35-39歳(未婚)	75
35-39歳(既婚)	75
42-45歳(団塊)	100
46-49歳	100
50-59歳	100
60-64歳	75
合計	1050

2、実施時期：92年7月

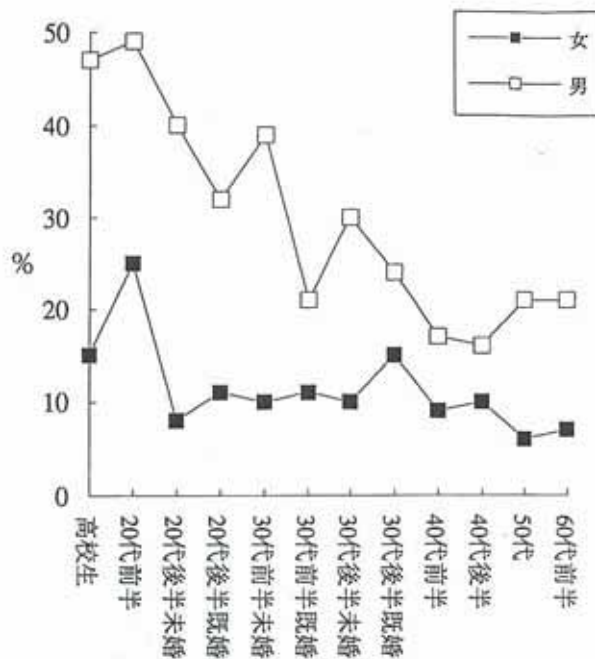
3、調査方法：個別訪問面接聴取および留置法の併用

(1) 日常生活で感じる自覚症状

1-1) 自覚症状がないと答えた人

- ・男性では20代前半までは半数が自覚症状は無いと答えているが、その後は年代とともに減少する。
- ・既婚者の方が未婚者よりも減少は早く、より疲れていると思われる。
- ・女性は全年代で低く、20代から既に1割と大変少ない。これは後で述べるように女性特有の症状が多い為であろう。そのため年代傾向も認められない。

自覚症状が「なし」と答えた人

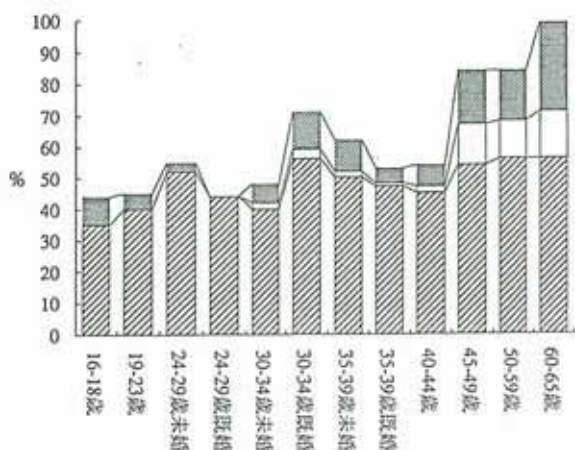


1-2) 普段感じている自覚症状

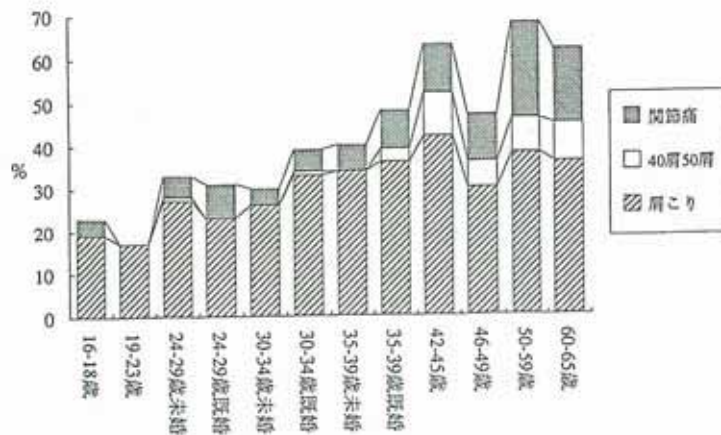
この結果は「感じられる症状にいくつでも○を付けて下さい」という問への答えの結果の個々のデータを積み上げたグラフで示したものである。したがって一人でいくつも自覚症状があれば高くなる。

☆肩こり、関節痛などは年代とともに自覚者が増えており、予想された結果となっている

女性が日常生活で感じる自覚症状 (外因性)

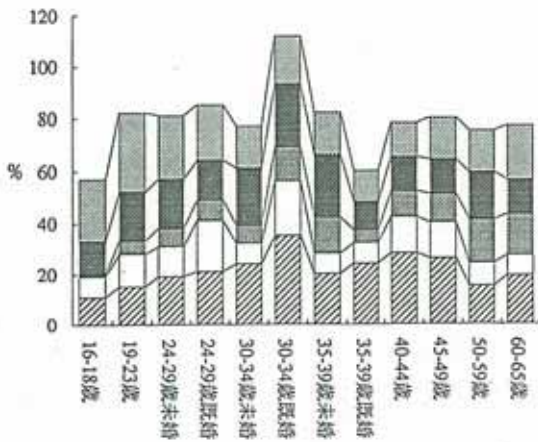


男性が日常生活で感じる自覚症状 (外因性)

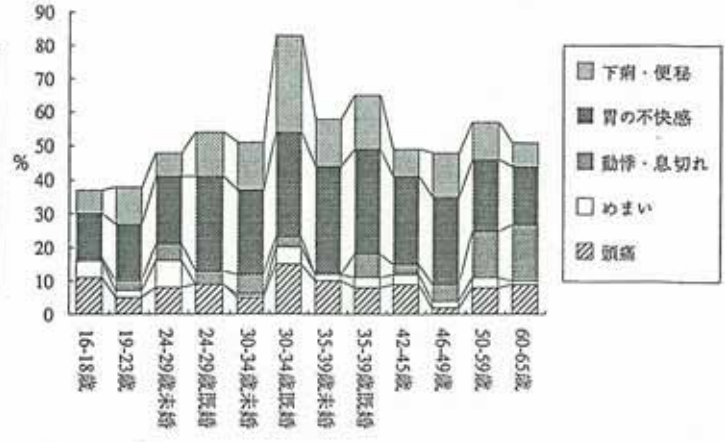


☆頭痛、や胃の不快感などの内臓疾患の予兆ともみられる自覚症状は、30代前半の既婚者に男女とも高いことが注目される

女性が日常生活で感じる自覚症状（内因性）

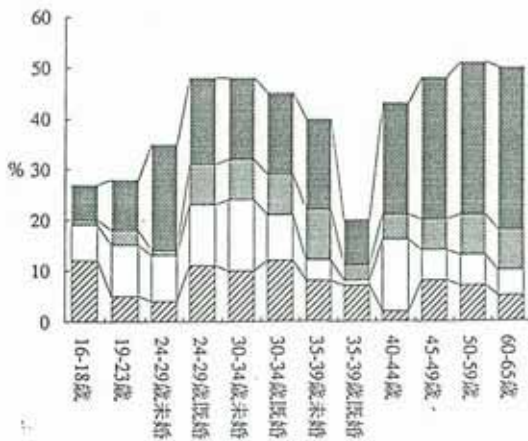


男性が日常生活で感じる自覚症状（内因性）

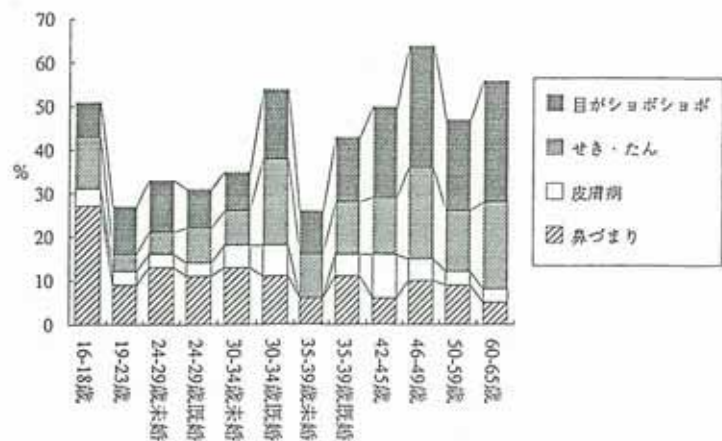


☆皮膚・粘膜系統の自覚症状は男性と女性であまり差が認められない。むしろ男子高校生に見られるように男性の方が多い傾向も考えられる

女性が日常生活で感じる自覚症状（皮膚・粘膜）



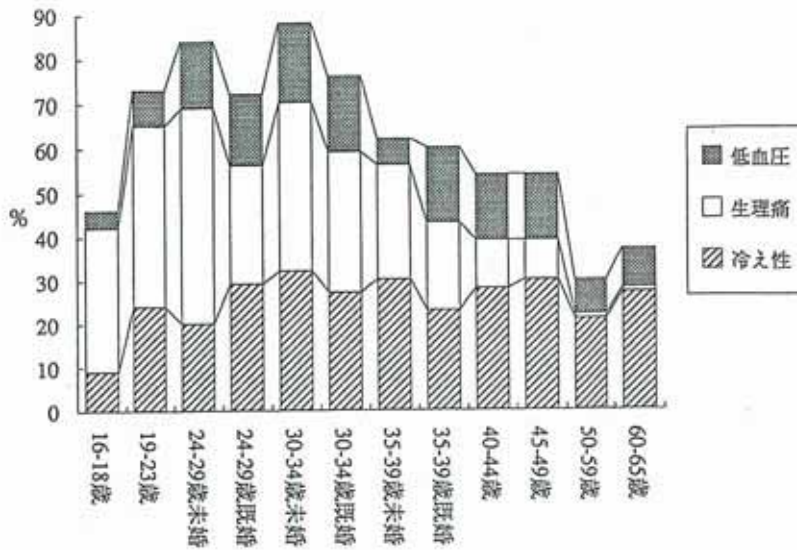
男性が日常生活で感じる自覚症状（皮膚・粘膜）



☆女性特有の自覚症状

ここでは未婚女性に、生理痛が多いことが特徴的である。

日常生活で感じる女性特有の自覚症状



自覚症状	肩こり	40肩50肩	関節痛	頭痛	めまい	動悸・息	胃の不快	下痢・便秘	鼻づまり	皮膚病	せき・た	目がショ	なし	冷え性	生理痛	低血圧
女性																
16-18歳	35	0	9	11	8	1	13	24	12	7	1	7	15	9	33	4
19-23歳	40	0	5	15	13	5	19	30	5	10	3	10	25	24	41	8
24-29歳未	52	0	3	19	12	7	19	24	4	9	1	21	8	20	49	15
24-29歳既	44	0	0	21	20	8	15	21	11	12	8	17	11	29	27	16
30-34歳未	40	2	6	24	8	7	22	16	10	14	8	16	10	32	38	18
30-34歳既	56	3	12	35	21	13	24	19	12	9	8	16	11	27	32	17
35-39歳未	50	2	10	20	8	14	24	16	8	4	10	18	10	30	26	6
35-39歳既	47	1	5	24	8	5	11	12	7	1	3	9	15	23	20	17
40-44歳	45	2	7	28	14	10	13	13	2	14	5	22	9	28	11	15
45-49歳	54	13	17	26	14	11	13	16	8	6	6	28	10	30	9	15
50-59歳	56	12	16	15	9	17	18	16	7	6	8	30	6	21	1	8
60-65歳	56	15	28	19	8	16	13	21	5	5	8	32	7	27	1	9
男性																
16-18歳	19	0	4	11	5	1	13	7	27	4	12	8	47			
19-23歳	17	0	0	5	2	3	17	11	9	3	4	11	49			
24-29歳未	27	1	5	8	8	5	20	7	13	3	5	12	40			
24-29歳既	23	0	8	9	0	4	28	13	11	3	8	9	32			
30-34歳未	26	0	4	5	1	6	25	14	13	5	8	9	39			
30-34歳既	33	1	5	15	5	3	31	29	11	7	20	16	21			
35-39歳未	34	0	6	10	2	0	32	14	6	0	10	10	30			
35-39歳既	36	3	9	8	3	7	31	16	11	5	12	15	24			
42-45歳	42	10	11	9	3	3	26	8	6	10	13	21	17			
46-49歳	30	6	11	2	2	5	26	13	10	5	21	28	16			
50-59歳	38	8	22	8	3	14	21	11	9	3	14	21	21			
60-65歳	36	9	17	9	1	17	17	7	5	3	20	28	21			

(2)健康を話題にすること

この結果は男女とも年代傾向がきれいに認められる。従って前項でみてきた自覚症状も女性にあってはそれほど深刻なものではないと考えられる。それでも40代に入ると女性は6割が健康を話題にするようになる。一方、男性では60代になって始めて、6割の人が健康に関心を向けるといえる。

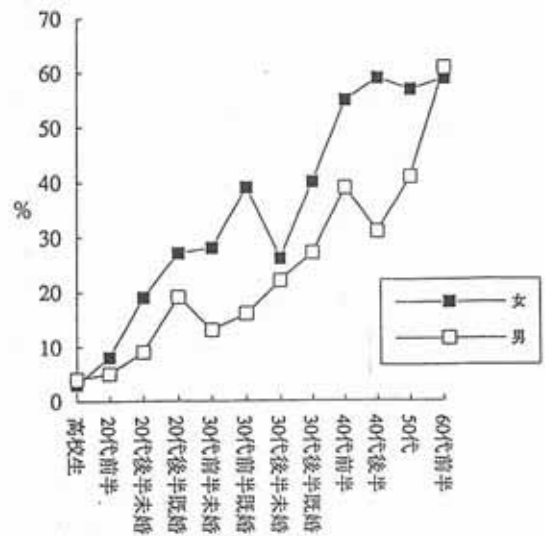
(3)健康維持に関する考え方

3-1) 一般的な維持策

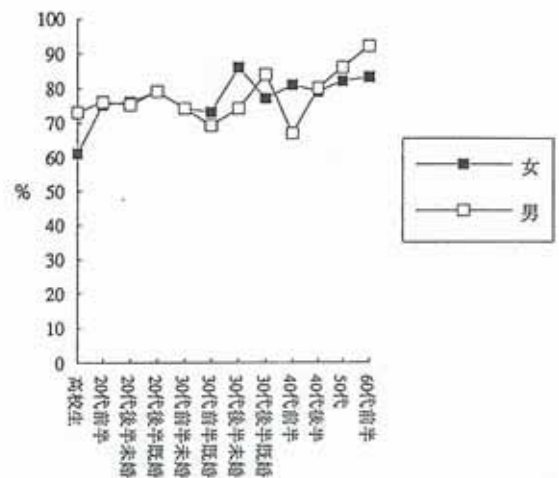
「睡眠」はよく意識されていて、8割の人が男女とも充分取るようにしていると答えている。

「体力の維持向上」は40代前半までは5割弱の人が意識しており、特に20代では男性の意識の方が高い。40代後半から男女とも更に意識するようになり、50代では6割の人が意識している。

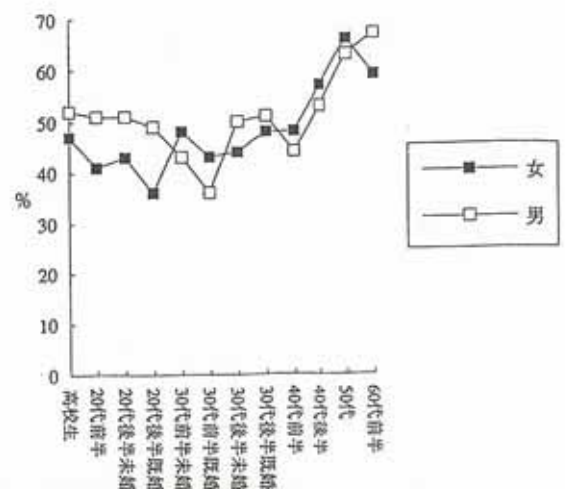
友人・知人との雑談で健康を話題にする



健康のため睡眠は充分にとるようにしている



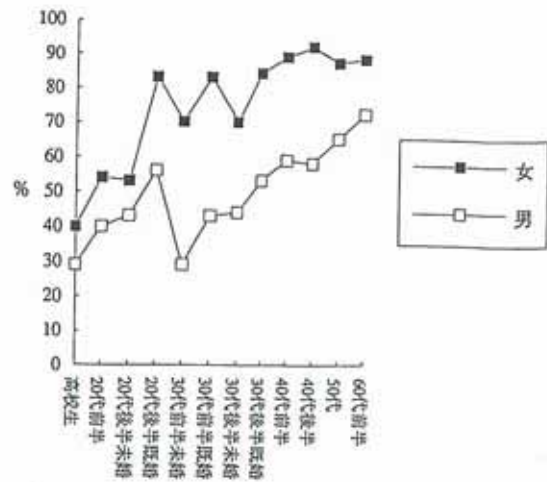
健康のため体力を維持向上させる努力をしている



3-2) 食品に関する考え方

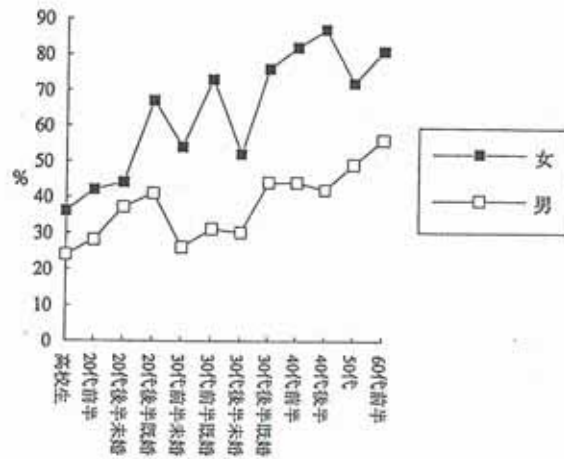
食品に関しては食事をあずかる主婦が多い女性と男性では意識に大きな隔りがある。それでも60代の男性も7割が栄養のバランスに気をを使うと答えている。

健康のため栄養のバランスには気を使っている



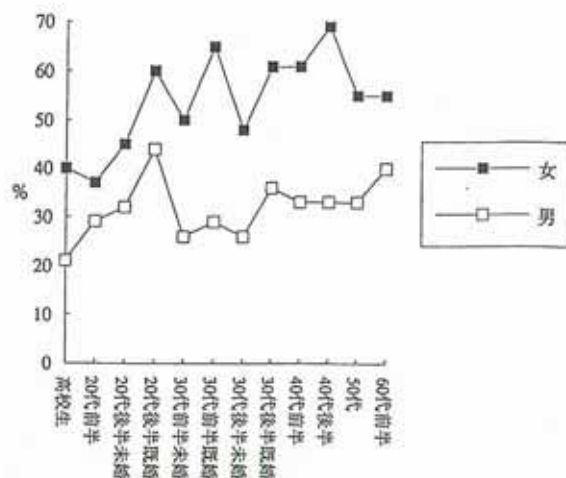
「食品の素材」についても「バランス」への関心よりは低いですが、主婦では7割以上が気を使っている。

健康のため食品の素材には気を使っている



「飲料水」についても主婦では6割以上が気を使っている。

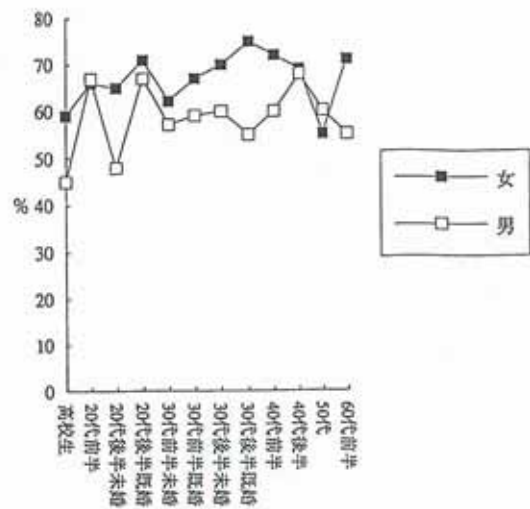
健康のため飲料水に気をつけている



(4)治療法への関心

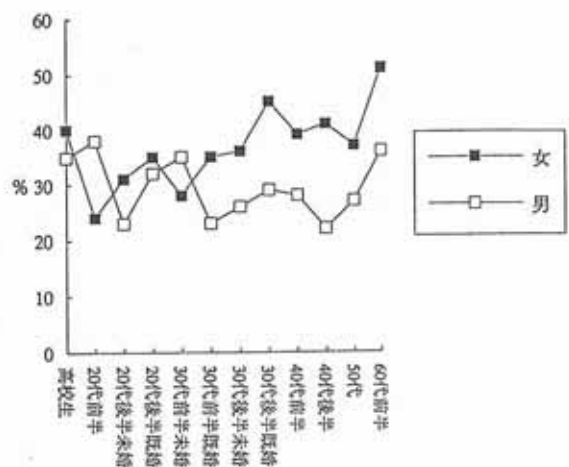
「薬をなるべく飲まないようにしている」人は男性の方が少なくて6割前後。女性では7割以上と考えられる。日本人の「薬好き」も変わりつつあるようである。

薬はなるべく飲まないようにしている



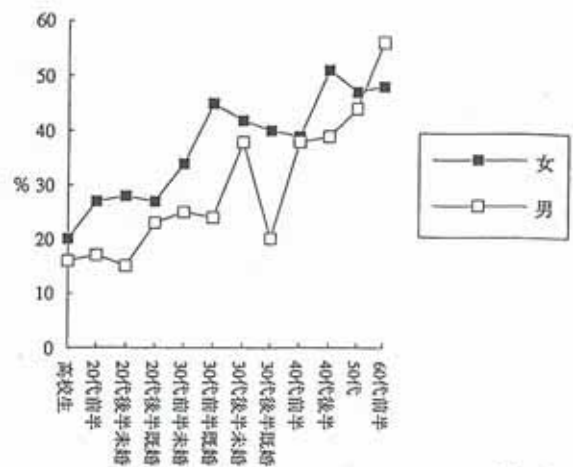
「健康食品や飲料」をよく摂取する人は女性では4割強で、男性は3割弱である。年代の影響は少ないが、60代では男女とも増加する。

健康食品や飲料をよく摂取している



「漢方薬・漢方治療」については女性の方が若干高いが、男女共、年代により増加し、50代以降は半数の人が関心を持っているといえる。

漢方薬・漢方療法などに興味がある



以上